

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】	○最大限 子供の健やかな学びを保証する学校
		【目指す児童・生徒像】	○自らの人生を自らの力で切り拓き、持続可能な社会の創造を担う人材 ～Think Globally.Act locally.～
		【目指す教師像】	○認め合い・支え合い・高め合うチームである教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業づくりの基本の20項目をまとめた「玉小授業カスタンダード」に基づき、授業改善を行う。	4	「玉小授業カスタンダード」を20項目5割を達成した教員が60%以上	4	授業で1日に1回以上手を挙げている児童が70%以上	2	玉小授業カスタンダードの5割達成が50%以上になっているが今後6割、7割達成ができるように授業改善に取り組んでいく。手を挙げる児童の割合は発達段階に応じて差があるため、学年や家庭に応じて発言しやすい環境や活動ができるように授業の工夫をしていく。	B	挙手の割合については発達段階によって難しい学年もある。安心感のある学級づくりはもちろんのこ、ペア学習やグループ学習などを積極的に取り入れ発言する機会を多く与えられるように授業方法の重点化を周知していく。
				3	「玉小授業カスタンダード」を20項目中5割を達成した教員が50%以上	3	授業で1日に1回以上手を挙げている児童が50%以上				
				2	「玉小授業カスタンダード」を20項目中5割を達成した教員が40%未満	2	授業で1日に1回以上手を挙げている児童が30%以上				
				1	「玉小授業カスタンダード」を20項目中5割を達成した教員が40%未満	1	授業で1日に1回以上手を挙げている児童が30%未満				
		インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。	昭島ユニバーサルデザインに基づく教室環境を整備し、落ち着いて学習を受けられる環境をつくる。	4	教室環境を整備した教員が80%以上	4	先生の書く黒板が分かりやすい児童が70%以上	3	学期の節目ごとに職員間で声を掛け合い、定期的に教室の環境整備をした。児童が板書に集中できるように、教室前方の掲示物を厳選した。教室内は物の保管場所を明確にして、児童が落ち着いて過ごせるようにした。	B	黒板もモニターもどちらもよく見えるように、文字の大ききや色に工夫が必要。教室後方が座席の児童までよく見えるようにする。タブレットの活用も進める。
				3	教室環境を整備した教員が70%以上	3	先生の書く黒板が分かりやすい児童が60%以上				
				2	教室環境を整備した教員が60%以上	2	先生の書く黒板が分かりやすい児童が50%以上				
				1	教室環境を整備した教員が60%未満	1	先生の書く黒板が分かりやすい児童が50%未満				
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳的諸価値について、「価値・人間・他者」理解を深め、自己の生き方を見つめ直す道徳科授業の充実を図る。	互いを認め合う道徳授業を行い、思いやりの心をもって行動できる児童を育成する。	4	道徳諸価値を意図して道徳科授業を行っている教員が80%以上	4	学級の誰とも協力して活動ができる児童が70%以上	4	教員は道徳的諸価値を理解し、授業を行うことができている。また、道徳地区公開講座を行うことにより親切、思いやりの価値を中心とした授業を公開することで地域や保護者にも考えてもらえる機会となった。	A	道徳教育については一定以上の評価が出ている。自己と他者が共に成長できる環境を作っていくようにする。
				3	道徳諸価値を意図して道徳科授業を行っている教員が70%以上	3	学級の誰とも協力して活動ができる児童が50%以上				
				2	道徳諸価値を意図して道徳科授業を行っている教員が60%以上	2	学級の誰とも協力して活動ができる児童が30%以上				
				1	道徳諸価値を意図して道徳科授業を行っている教員が60%未満	1	学級の誰とも協力して活動ができる児童が30%未満				
	チーム玉小でアセスメントを丁寧に行い、いじめ・不登校・自殺等の未然防止、早期解決を図る。	SOSカードを活用し、児童と教職員がコミュニケーションを深め、安心して登校できる環境をつくる。	4	SOSカードを児童に作成させた教員が80%以上	4	自分や友達の名を認めてくれる学級と答えた児童が80%以上	4	SOSカードの活用は概ね定着し、教職員による丁寧なアセスメントや情報共有につながった。児童が学級の肯定的に捉える傾向も見られた。今後は、日常的な関わりと結び付け、いじめの未然防止と早期対応を進めていく必要がある。	A	SOSカードの活用が効果的であり、安心して学校で生活している児童が多い。自他共に認め合える児童の多い学級が増えることを望む。	
			3	SOSカードを児童に作成させた教員が70%以上	3	自分や友達の名を認めてくれる学級と答えた児童が60%以上					
			2	SOSカードを児童に作成させた教員が60%以上	2	自分や友達の名を認めてくれる学級と答えた児童が40%以上					
			1	SOSカードを児童に作成させた教員が60%未満	1	自分や友達の名を認めてくれる学級と答えた児童が40%未満					
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	「グッドモーニング60分」の活用において、「見通し」と「振り返り」を行う。	4	活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が80%以上	4	「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が70%以上	2	学期始めに行っている「グッドモーニング60分」を通して、児童が自分自身の生活習慣を振り返るきっかけとなっている。今後も継続して行い、より生活習慣へとつなげていくようにする。	B	「グッドモーニング60分」は、効果がある。ただし、一部の学校生活を児童一人ひとりが計画して、良い一日にすることができるよう指導してはほしい。放課後の学習時間や読書時間の少なさを、ゲームやタブレットの長時間使用が気になる。
				3	活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が60%以上	3	「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が60%以上				
				2	活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が40%以上	2	「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が50%以上				
				1	活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が40%未満	1	「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が50%未満				
	授業・休み時間を効果的に活用し、自ら楽しみながら体力向上を図る児童を育成する。	教職員も休み時間に校庭に出て、外遊びを児童と共にし、共に遊び、模範を示す。	4	中休みに校庭で児童と活動した教員が70%以上	4	晴れた日には外遊びをしている児童が70%以上	4	特別講師を招聘し、楽しく体を動かすダンスの要素を取り入れたリズムダンスの授業を各学級8時間も、2、3学期に設定することができた。また、企画活動も児童中心に行うことができた。今後はブラッシュアップしながら取り組んでいく。	B	保護者は、児童の体力向上に満足してはいる。休み時間に教員も外に出る。体力向上に旬間等の取り組みをしっかりと保護者にも伝えて、満足感を感じさせる工夫が必要。	
			3	中休みに校庭で児童と活動した教員が60%以上	3	晴れた日には外遊びをしている児童が60%以上					
			2	中休みに校庭で児童と活動した教員が50%以上	2	晴れた日には外遊びをしている児童が50%以上					
			1	中休みに校庭で児童と活動した教員が50%未満	1	晴れた日には外遊びをしている児童が50%未満					
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	「昭島市民科」として、生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立て、地域社会に貢献できる児童を育成する。	地域人材を活用した授業を行い、地域と学校が共にWin-winの関係をつくる。	4	地域人材を活用した授業を行った教員が80%以上	4	自分は地域の役に立っていると回答した児童が70%以上	1	教員の地域人材を活用した意識は低い。が、すべての学年で総合的な学習の時間や社会の力活用事業によって100%実現できている。さらに児童が自分が地域に役立つことができたと思える単元・授業設定や外部人材とのやり取りの機会を増やしていく。	C	来年度も研究課題を総合的な学習の時間に設定し、各単元で地域人材を活用することを研究内容に盛り込んでいく。
				3	地域人材を活用した授業を行った教員が60%以上	3	自分は地域の役に立っていると回答した児童が60%以上				
				2	地域人材を活用した授業を行った教員が40%以上	2	自分は地域の役に立っていると回答した児童が50%以上				
				1	地域人材を活用した授業を行った教員が40%未満	1	自分は地域の役に立っていると回答した児童が50%未満				
	児童会が主体的に取り組む活動を意図的・計画的に行い、主権者としての意識を高める。	児童会・委員会・学級活動の充実を図り、主体的態度・学校を創造する態度を育成する。	4	児童会が主体的に取り組む活動を行った教員が70%以上	4	学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が70%以上	3	学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が70%を超えており、以前に比べ児童が主体的に学校を創っていくという意識が高くなってきた。児童会や中央委員会を設置したことによる効果が高いと思われる。さらに児童の自己有用感を高めるため、児童が主体的に取り組める環境を教師が整備していく。	B	来年度も引き続き児童会活動を主軸にし、児童が主体的に取り組める環境を整備する。児童集会などを充実させ、児童発信の企画をつくり、学校行事にも児童主体の企画を創造していく。	
			3	児童会が主体的に取り組む活動を行った教員が60%以上	3	学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が60%以上					
			2	児童会が主体的に取り組む活動を行った教員が50%以上	2	学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が50%以上					
			1	児童会が主体的に取り組む活動を行った教員が40%未満	1	学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が50%未満					